

芦安ファンクラブ通信

第14号
夏号

NPO法人
芦安ファンクラブ
南アルプス市芦安
芦会 1589-8
事務局：(大滝)
055-288-2531

『かっいいい北岳』のために

芦安中教諭 大館由行

二〇〇三年八月三日(日)午前七時四〇分、芦安中学校登山隊三十六名は夜叉神の森に到着した。隊員中三〇名にとつては未知なる鳳凰への登山道をどのよう
に想像していたらう。少なくともひとり
の生徒は、長く苦しい泣きたくなるよう
な思いに心塞がれていたのではないか。
クガイソウの群咲く峠小屋に着いたの
は登り始めて八〇分後。その間に三回の
休憩を入れ、登山の安全を祈願し、炭を
背負い下る往時の芦安村民を偲び、一汗
も二汗もかいて登ってきた。

この日標高一七七〇mの夜叉神峠から
は白根連山が見えた。前日に梅雨明けが
宣言されたばかりで、まだ十分湿り気を
含んだ空気が峠周辺に満ちていた。

日の照る峠は時が止まっているかのよ
うに感じられ眠気を誘うが、まだここは
全行程の十分の一も消化してはいない。
もし、地図を正確に読み距離を測る中学
生であったならここでの記念写真には控
え目なVサインを出すだろう。



スイカのボッカも貴重な体験

鮮やかな色合いのタカネピランジ



秒速五〇cm。ち
ようど桜が散り、蛍
が舞う速さだ。
オトギリソウの咲く
火事場跡で待望の昼
食を済ませれば同じ
一〇〇分で宿泊する
南御室小屋までの三
五キロを歩くことが
できる、しかも苺平
での二十分近い大休
止を入れて。

鞍部に位置する小屋でのひとときは生
徒たちに忘れられない記憶となっただろ
う。冷たい湧水、三年生が代わる代わる
運び上げたスイカの味、気前いい流れ星
そして朝焼け。森閑とした山小屋のた
ずまいに縁取られた絵となつていつま
でも心に残るに違いないと思えた。

翌朝五時三十分の朝食後には、今回の
行程中最もきつい登りが朝の挨拶代わり
に生徒たちを待っていた。腰痛のため小
屋から引き返したK教諭には残念だつた
が、こんな急坂を登る体験はなかなか味
わえない。ガマ岩で北岳の勇姿を確かめ
てしばらく、七時十五分に隊の先頭から
歓声が聞こえてくる。「ついに来たな。」
と思いつつ、七時十五分に隊の先頭から
踏み味わう。個人的には登山中で最も好
きな一瞬である。まだ手に入れてはい
ない。しかし、しばらくの後は確実に目
にも手にもすることができるといふ感覚
はやる気持ちを抑えつつ、今まで以上に

一歩一歩を惜しみつつ同時に力を込める。



薬師岳山頂でみんないい顔 後方は北岳

まさに疲れが吹っ飛ぶという。三六〇
度の展望に隊員のすべてが満足顔だ。

行く手には目指す薬師・観音岳。甲斐
駒の白い山頂部が覗く。昨年雨に降り込
まれた仙丈ヶ岳。来年の北岳、間ノ岳、
農鳥岳、策ヶ岳。振り返れば富士が望ま
れる。八ヶ岳連峰も雲間に見え隠れする。
登頂の達成感とは一味違う充実感、高揚
感。後は薬師小屋を経由しての贅沢な稜
線散歩だ。花崗岩に映えるタカネピラン
ジのピンクに自然の摂理を思う。あるべ
きものが、あるべきように、あることに
驚く気持ちを続けさせたいと願う。

生徒たちは下山道でのクリーン作戦も
実行した。この生徒たちなら生涯ゴミを
捨てることはないだろう。

この行事の源は今から約三十年前一九
七四年八月一日に当時の三年生有志によ



観音岳山頂で「やったね」

る北岳登山にまで遡る。七十七年には三
十周年記念行事として北岳への全校登山
を実施。一九八五年に初めて鳳凰三山に
登っている。以降、九〇年には学校行事
として完全に定着し、九二年からは北
岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山のサイクルが始
まり、今回で四巡目が完了したことになる。
これほどの行事が今までにひとりの
落伍者もなく実施できているのは、登山
の素人集団である教職員への「啓蒙」と
「教育」を含め多大な奉仕と協力を惜し
まない地域の方々の支えがあつてこそと
いえる。

次代に希望を託し生きる力を育てるこ
とが教育の営みとするならば、この夏季
施設は最もシンプルな教育として我々教
職員にとつても原点であり続けるだろう。

下山した翌々日の新聞に生徒のコメン
トが載つた。登山前には心塞がれていた
であろう生徒はきつぱりと『北岳(来年
登る予定)はかっこよかった。』生徒は
未来からの贈り物である。

地域の特産物を体験！
芦安保育所「チャレンジジャー保育」

芦安保育所では年長児が七月二五日・二六日にお泊まり保育を行いました。その中にチャレンジ保育！があります。チャレンジ保育は、普段の保育では経験できないことを体験したり、自分たちの住んでいる地域のことを知るといった目的です。昨年、地域で活躍しているそば作りの会「甲斐ヶ峰庵」の方々に指導してもらいそば作りの体験をしました。子供達から「おもしろかった」「またやってみたい」「楽しかった」という感想があったので今年もチャレンジしました。



「水回し」が、かんじんだよ。

「甲斐ヶ峰庵」の千野会長さんの手作りエプロンを身につけ、そば打ち名人達と

一緒に作業開始。粉をこねてゆでるそばして、切つてゆでる行程に一人一人の名人がついて一枚を仕上げていきます。そば打ち名人は地元のおばちゃん達です。おばちゃん達は昔からそばを打っているので作ることは大変！というよりもたのしんで作っていて生活の一部になっています。



ここから巻きつけて伸ばすだよ

最初は遠慮がちで言葉も少なく動作もぎこちがありませんでしたが、名人達の子どもたちへのしぐさから、思いやり、やさしさ、一生懸命が伝わってきました。名人のおばちゃん達が「粉をよく混ぜて」「手つきがいいね そうそう上手 将来はそばやさんかな」などと言葉をかけてくれるので気持ちもほぐれ会話ははずんできました。おばちゃん達は子どもの扱

いもめいじん！のようです。その後、棒でのばしたり、包丁で切ったりの協同作業のころには息もピッタリ。驚くほど上手にできました。名人達は子供にわかりやすく、また作業しやすいようにと考えながらの作業だったのであせびつしよりでした。その一生懸命の姿に子どもたちも感じるものがあつたと思います。



やっぱり「ゆでたて」が一番うまいや

そばをゆであげると、その場でつまんで食べさせてくれ「この食べ方が一番うまいんだ」と教えてくれました。たのしく、おいしく体験できたそば作りに子供達は大満足でした。そば作りを通して、おばちゃん達に色々な事を教えてもらうことができました。

これからも子どもたちに地域のことを保育の中で教えていきたいと思えます。
 芦安保育所 主任保育士 功刀 典子



南アルプス芦安山岳館で「絵画教室」開催

南アルプス山岳館では、八月一日(火)夏休み企画として、「南アルプスの自然を描こう」と題して、日本画家の宮本和郎先生(第一回 南アルプス芦安山岳館企画展開催中)を講師に招き、絵画教室を実施しました。

雄大な自然の中できれいな空気を吸いながら高山植物や山を彩る木々の美しさを子ども達に満喫してもらいながら、夜叉神峠で写生会を開催する予定でしたが、朝から雨に見舞われ当初予定の夜叉神峠での写生会は、南アルプス山岳館内での絵画教室となりましたが、子ども達はそのれぞれに館内や周りの様子を思いのままにスケッチしていました。

宮本先生からは「自分の感じた事、見た事を体の中に覚えさせてしまってから描くと、よいものができ、一生忘れない絵になります。」とアドバイスをいただきました。参加者の中には雨の合間を見つけて外で「初めて見る花でかわいい」と言いながら形や色をよくとらえホタルブクロをスケッチしている子供もいました。

私達が、いつも当たり前に見ている風景や、可愛らしく咲いている花を夢中になって描いて

いる姿を見てみると、いつの間にか自分の心が優しくなっていることに気付かされます。他の参加者のみなさんの、展示室の鳥やサル・オコジョ・イワナ等を感じたままにのびのびと描かれた作品は、夜叉神峠には行けませんでしたが館内にある展示物を巧みにとりあげ、豊かな感受性に裏打ちされた素晴らしいものでした。また、普段何気なく見ている山岳館の様々な展示物が、子供達の柔軟な発想で絵画の対象になったことに驚かされるばかりです。



宮本先生のやさしい指導に、みんな納得の様子

絵画教室の最後に行われた、講師と参加者の感想会も、宮本先生から一人一人に講評をしていただ

き、和気あいあいとした雰囲気です。終わることができました。今後山岳館の活動を発展させるためにより多くの人人からご意見とご協力をいただきながら、いっそう洗練されたユニークな企画ができたらと思っています。

最後に、芦安ファンクラブの方々にはスタッフとして協力していただきありがとうございます。お二人共、三〇年ぶりに描く絵とは思えない素晴らしい山の絵でした。



夏の花「ミヤマハナシロ」

登山道整備ボランティア募集

山岳遭難防止「大久保基金の会」では登山道整備のボランティアを募集しています。期間は九月中旬～十月中旬の間の土、日です。

今回の整備箇所は広河原～白根御池小屋間の尾根ルートの中間部です。(広河原から徒歩1時間半の個所付近)

主な作業内容は既設のはしごの修理や取換作業です。土曜の夜は付近の山小屋泊になります。

資材等は現地に準備してあります。工具、食料等は主催者が準備します。

故郷の山々を大切にしていく為にも多くの方々の参加をお願い致します。

申込・問合せは左記の通りです。

◎大久保基金の会事務局(芦安支所)

電話〇五五・二八八・二二一一

FAX〇五五・二八八・二二一三

◎南アルプス芦安山岳館

電話〇五五・二八八・二二二五

FAX〇五五・二八八・二二六二